

【参考】 聖書研究ガイド 2020 年 3 期 9 課(8 月 26 日 水曜日)

使徒パウロはこれら二つの箇所、互いを受容することの根底にある原則を示しています。キリストが私たち 1 人ひとりを赦し、受け入れてくださったのに、私たちは互いを赦し、受け入れることを拒めるでしょうか。実際、相手の人の欠点にもかかわらず、私たちが互いを受け入れることができるのは、まさにイエスが私たちを受け入れてくださったからなのです。

このことの意味を真剣に考えてください。あなた自身や、あなたがしてしまったことで、いまだに悩んでいること（あなただけが知っていること、ほかの人に知られたら、あなたが恐れをなしてしまうこと）について、考えてください。

しかし、それがどうだというのでしょうか。信仰によって、あなたはキリストに受け入れていただいています。彼は、ほかの人が知らないこともすべてご存じです。確かに、彼はすべてを知っておられますが、それにもかかわらず、あなたをとにかく受け入れてくださるのです。あなたの善良さのゆえではなく、キリストご自身の善良さのゆえです。

では、ほかの人に対するあなたの態度は、どうあるべきでしょうか。

ある人にとっては理解しがたい考えでしょうが、純粋な受容とは、私たちがその人があるがままに、罪深い習慣を持ったまま受け入れることを意味します。なぜなら、彼らは神のかたちにかたどって創造された人間だからです。「わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださった」（ロマ 5:8) ので、私たちはほかの人を赦し、受け入れることができます。私たちに對するキリストの愛が、ほかの人に対する私たちの受容と赦しのまさに基礎なのです（ロマ 5:6～10）。

しかし、相手を受け入れ、思いやる関係がひとたび築かれたなら、愛情をこめて聖書の真理をその人に提示する必要がしばしばあります。そうしないことは、相手をおざなりに愛することです。私たちは友だちとして、人生を変える永遠の真理を自分の友人に伝えるよう、十分気にかけてください。

イエスの態度は、「あなたの好きなように何でもしなさい。だいじょうぶ。それでも私はあなたを受け入れるから」というものではありませんでした。そうではなく、「あなたがこれまでどんなことをしてきたとしても、私はあなたを喜んで赦し、変わるための力を与えよう」というのが、イエスの態度でした。愛情深い態度を伴ったキリストの精神で、聖書の真理を謙虚に伝えることによって、心を勝ち取り、人生を変えることができるのです。

【参考】 受容と寛容

▶受容：自分が嫌いな人やものを、抗議したり変えようとしたりせず、同意し受け入れること。

→聖書に「受容」は登場しない。

▶寛容：自分が嫌い、あるいは同意できない意見や行動の存在に耐える能力、意欲を言う。

→聖書に「寛容」は、使徒言行録 24:4、ローマ 2:4、Ⅱコリ 6:6、ガラテヤ 5:22、エフェソ 4:2、コロサイ 3:12、Ⅰテモ 3:3、Ⅱテモ 3:10、テトス 3:2 の 9 聖句に登場する。